

平成30年 1月市長定例記者会見

日 時：平成30年1月9日（火） 午前9時～9時30分

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞、朝日新聞、北日本放送、チューリップテレビ、射水ケーブルネットワーク、庄東タイムス

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、学校教育課長、港湾・観光課長、未来創造課長（司会）

○質疑応答の概要

Q1. 今年の抱負を聞かせてほしい。また、今年は富山新港開港50周年やねんりんぴっく富山の開催の年となるが、その中で射水市をPRする事業などが決まっていれば教えてほしい。

A1. 市の大きな課題として、少子高齢化や人口減少にどのように取り組んでいくのか、というところがある。成果がでてきているものもあるが、まだまだ全体の人口減少に歯止めをかけるには至っていない。人口減少に歯止めをかける、また、射水の魅力あるまちづくりにつながるような事業については積極的に取り組んでいきたい。人口減少に歯止めがかかるまでは、人口規模が小さくなることは避けられない。身の丈にあった行政運営を実現しなければならない。公共施設や受益者負担の在り方の見直しなどにも踏み込んでいかななくてはならないと思う。場合によっては市民の皆様痛みを伴うような改革につながることもあるかもしれないが、しっかり踏み込んでいくことで、将来的にも健全な財政を堅持しながら人口減少に歯止めをかける、また、射水の魅力あるまちづくりにつながるような事業に力を入れていくための財源を生み出していきたい。行政だけでなく、市民や企業、団体などいろいろな方と射水を良くしたいという思いを共有し、連携体制の中で総力を挙げてよりよい射水の未来に向けて取り組んでいく1年にしたい。新港開港は射水エリアのこの50年の発展の基盤となってきたと思う。将来を見据えたまちづくりの重要性を感じる。今年が、将来に向けて射水が飛躍できるような基礎基盤を固める年にもできればと思う。

富山新港開港50周年については、県と話をしながら、実行委員会を近々立ち上げる。実行委員会の中でしっかり議論を詰めながら内容を固め

ていきたい。式典や冠事業なども実施していければと思う。現在確定しているのは、5月と6月にクルーズ船の寄港がある。他にもいろいろな企画があるので、固まり次第ご案内したい。

ねんりんぴっく富山は、今年11月に開催ということで、春には健康マージャンとパークゴルフのプレ大会が予定されている。これらプレ大会などを通じて、運営・内容の確認をしながら、本番はおもてなしができるようにできればと考えている。(市長)

Q 2 . 平成の時代は来年4月に終わりを迎えるが、行政運営上、平成の大合併について考えがあれば教えてほしい。

A 2 . 平成の大合併は、人口減少が避けられない状況であることから、行政としてどのように市民サービスなどの役割を果たしていくかを考えたとき、選択肢の一つとして議論され、その中で射水市も平成17年に誕生した。合併へ踏み切った射水市としては、将来において振り返った時に評価していただけるよう、よりよいまちづくりに向けて取組を進めていかななくてはいけないと思う。(市長)

Q 3 . 時代の中で合併は必然だったと思うか。住民自治を進める上では、行政が遠くなることは一つの課題であると思うが、その点についてはどうか。

A 3 . 市町村合併については、効率的な行政運営などを考えるときの一つの選択肢として議論されてきた。当時は、合併しなければ行政が立ち行かなくなるぐらいの議論がされたりもしたが、単独市制のまちにおいても、しっかり特色あるまちづくりを進めている。合併に踏み切った射水市としては、将来的にも良かったと言っている市政運営やまちづくりを進めることが大事であると思う。(市長)